

## 体操改革運動 (Gymnastikbewegung) について

菅井 京子<sup>1)</sup>

### A study about “Gymnastikbewegung”

Kyoko SUGAI

Key words : Gymnastikbewegung, Deutsche Gymnastik, Rhythmische Gymnastik, F. Hilker, R. Bode

キーワード：体操改革運動，ドイツ体操，リズム体操，F. ヒルカー，R. ボーデ

#### はじめに

グー ツ ム ー ツ (J. C. GutsMuths, 1759-1839) やヤーン (F. L. Jahn, 1778-1852) がドイツ近代体育の先駆的役割を果たした後，学校への体育の導入はドイツ国内の体育論争を経て，19世紀中頃シュピース (A. Spieß, 1810-1858) によって始められ，マウル (A. Maul, 1828-1907) によってほぼ達成された。このシュピース=マウル方式の体操は，人間の身体運動を部分運動に分割し，それらをひとつひとつ学習させ，いろいろに組み合わせ，全体的な連続運動に仕立てていく徒手運動 (Freiübungen) や，同様の発想による整列・行進を中心とする秩序運動 (Ordnungsübungen) を主要内容とするもので，当時の自然科学万能の合理的精神に基づき，号令に合わせて一斉に行われる幾何学的・形式的な集団訓練であった。これは，近代の合理的精神とも相俟って一世を風靡した。しかし，その後，シュピース=マウルの体操はあまりに形式的，人為的であり，鋳型にはめられた関節人形運動あるいは操り人形運動であるという批判を受けるようになり，これに代わる新しい体操が求められ，改革運動が起こった。20世紀の初め頃ドイツを中心にヨーロッパに起こった体

操改革運動がそれである。

この体操改革運動には，新しい体操諸派の多くの多彩な活動が含まれている。すでに我が国でも，大谷武一，二宮文右衛門や浅井浅一等の著書のなかで，それらの活動については早い時期から紹介がなされている。しかし，この諸派が連携して活動し，どのような成果をあげてきたのかについては記述が少ない。

本研究では，この体操改革運動に登場する人物とその著作，催された集会や会議とその報告書等，さらに用いられた術語の移り変わりに焦点を当てて，体操改革運動のなかで新しい体操諸派がどのように連携して活動し，どのような成果をあげたのか，そしてその成果がどのように現在まで引き継がれてきたのかについて考察する。

#### I. 体操改革運動のなかの諸系譜について

当時の体操改革運動には，一般に3つから4つの系譜が認められている。そのなかから次の人物に注目した。

L. パラート (Ludwig Pallat, 1867-1946)

F. ヒルカー (Franz Hilker, 1881-1969)

B. メンゼンディーク (Bess Mensendieck,

1) 生涯スポーツ学科

1864-1957)

R. ボーデ (Rudolf Bode, 1881-1970)

L. クラーゲス (Ludwig Klages, 1872-1956)

R. v. ラバン (Rudolf von Laban, 1879-1958)

## Ⅱ. 著作について

次の著作に注目し、考察した。

Pallat, L. / Hilker, F., Künstlerische Körperschulung, Ferdinand Hirt : Breslau, 1923.

Pallat, L. / Hilker, F., Künstlerische Körperschulung, 3, erweiterte Aufl. Ferdinand Hirt : Breslau, 1926.

Hilker, F., Reine Gymnastik, 2, Aufl., Max Hesses Verlag: Berlin, 1926.

Hilker, F., Deutsche Gymnastik, Bibliographisches Institut: Leipzig, 1935.

Bode, R., Alte und neue Pädagogik, In: Künstlerische Körperschulung, Ferdinand Hirt: Breslau, 1923, S. 138-143.

Bode, R., Vom Wesen der Ausdrucksgymnastik, In: Künstlerische Körperschulung, 3, erweiterte Aufl., Ferdinand Hirt: Breslau, 1926, S. 61-77.

Bode, R., Ausdrucksgymnastik, C. H. Beck'sche Verlagsbuchhandlung: München, 1922.

Klages, L., Vom Wesen des Rhythmus, In: Künstlerische Körperschulung, 3, erweiterte Aufl., Ferdinand Hirt: Breslau, 1926, S. 142-191.

Klages, L., Grundlegung der Wissenschaft vom Ausdruck, 7, überarbeitete Aufl., H.Bouvier u.Co. Verlag:Bonn, 1950.

Laban, R., Tänzerische Gymnastik, In: Künstlerische Körperschulung, 3, erweiterte Aufl., Ferdinand Hirt: Breslau, 1926, S. 77-95.

Laban, R., Gymnastik und Tanz,

Gerhard Stalling Verlag:Oldenburg I.O., 1926.

## Ⅲ. 集会・会議等について

この体操改革運動の流れのなかで、新しい体操の諸派が集まり3つの大きな会議が開かれた。「芸術的な身体修練のための会議 (Tagung für künstlerische Körperschulung)」(1922年, ベルリン), 「体操的身体陶冶 (Gymnastische Körperbildung) の会議」(1926年, デュッセルドルフ), そして「人間形成としての体操 (Gymnastik als Menschenbildung) の会議」(1931年, ミュンヘン)である。それに先立ち、芸術をテーマに第1回芸術教育会議が1901年にドレスデンで催された。第2回は文学をテーマに1903年ヴァイマルで、そして第3回は音楽と体操をテーマに1905年にハンブルクで開催された。

## Ⅳ. 術語について

次のような術語について、体操改革運動とその前後をも含めてその移り変わりを検討した。

体育 (Leibesübungen)

体育 (Leibeserziehung, Körpererziehung)  
からだづくり (Körperbildung)

動きの修練 (Bewegungsschulung)

動きづくり (Bewegungsbildung)

一連の運動構成, 動きのゲシュタルトウ  
ング (Bewegungsgestaltung)

体操 (Gymnastik)

体づくり運動

## おわりに

体操改革運動の最大の成果は、『ドイツ体操』のなかに体操の研究領域を明示したことであると思われる。これは、1922年から1931年の間に開催された3つの会議を通して、F. ヒルカー, R. ボーデ, R. v. ラバン等の体操諸派が協力して、F. ヒルカーやR. ボーデがまとめたものである。そして、これは新

しい体操の拠り所となる指導要領の基本となり、H. メダウの体操を経て、今日まで受け継がれている。

その体操の研究領域は、次のとおりである。  
「動きの基礎修練 (Grundschulung der Bewegung)」

「姿勢修練 (Haltungsschulung)」

「動きの発展 (Bewegungsentwicklung)」

「動きと手具 (Bewegung und Gerät)」

「動きのゲシュタルトウング (Bewegungsgestaltung)」

### 体操改革運動について、これまでに まとめたの拙論

1988年、メダウの体操体系における器官体操について、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第25号。

1990年、ラバンセンターにおける運動教育についての一考察、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第28号。

1991年、ルドルフ・ラバンについて、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第29号。

1992年、ルドルフ・ボーデについて、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第30号。

1993年、体操 (Das Turnen) について、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第31号。

1995年、遊戯奨励運動 (Die Spielbewegung) 及びスポーツ奨励運動 (Die Sportbewegung) について、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第33号。

1997年、体操改革運動 (Die Gymnastikbewegung) について、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第35号。

2001年、青年運動 (Die Jugendbewegung) 及び青少年指導 (Jugendpflege) について、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第39号。

2002年、労作学校運動、田園教育舎および学校田園舎運動、音楽教育、ならびに帝国学校会議について、大阪成蹊女子短期大学研究紀要第40号。

2003年、1920年代の学校における身体教育の改革構想、エッカルト、ガウルホーファーとシュトライヒャー、ノイエンドルフおよびハルテの構想について、大阪成蹊短期大学研究紀要創刊号。2005年体操改革運動の後継および発展としてのメダウの体操体系について、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第3号。

2006年、表現体操の方法論について、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第4号。

2007年、メダウとその教授法について、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第5号。2008年、体操の新たな出発について、びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ・開発支援センター年報第5巻。

2009年、L. パラートの『身体と芸術』とF. ヒルカーの『身体教育の新しい課題』について、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第7号。

2010年、体操改革運動におけるF. ヒルカーの役割について、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第8号。

2011年、F. ヒルカーの「ドイツ体操の特質について」、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第9号。

2011年、ドイツ体操同盟の成立に果たしたF. ヒルカーの役割について、スポーツ史研究第24号。

2012年、『ドイツ体操 (Deutsche Gymnastik)』に果たしたルードルフ・フォン・ラバンの貢献について、スポーツ史研究第25号。

2013年、『ドイツ体操 (Deutsche Gymnastik)』に果たしたルードルフ・ボーデの貢献について、スポーツ史研究第26号。

2014年、R. ボーデの「表出体操の本質について」にみられるL. クラーゲスの影響について— L. クラーゲスの「リズムの本質について」(1923・24・26年)を手掛かりにして —, スポーツ史研究第27号。